

会 議 録

議事録名		部長	課長	企画幹	係長	係	記録
佐久市保健福祉審議会障害者福祉部会							
日 時	令和4年11月8日	場 所	501 会議室		時 間	10時～11時30分	
出席者	○委員 廣田典昭部会長、工藤正委員、小平實委員、 山田美登里委員、黒沢奈々委員、吉田直美委員 ○事務局 福祉課長、地域福祉係長、障害福祉係長、療育支援係長、 保護係長、地域福祉係員、社協地域福祉係長				出席委員	6名	
					欠席委員	4名	
					事務局	7名	
提出資料	資料 1-1 第四次佐久市地域福祉計画・地域福祉活動計画（素案） 資料 1-2 第四次佐久市地域福祉計画（骨子案）に対するご意見等と対応方針 資料 1-3 第四次佐久市地域福祉計画＜部会ごとの審議対象＞ 資料 1-4 第四次佐久市地域福祉計画（骨子案）に係る意見等提出様式 資料 2 第二次佐久市障がい者プラン 中間年度実績報告						
○次第 1 開会 2 会議事項 ・「第四次佐久市地域福祉計画・地域福祉活動計画（素案）」について ・その他 「第二次佐久市障がい者プラン」中間年度実績報告について 今後の予定等について 3 閉会							
○議事録（質疑応答） 「第四次佐久市地域福祉計画・地域福祉活動計画（素案）」について ＜基本目標1「共に支え合う人づくり」について＞ 委 員 コロナ禍において、いきいきサロンや公民館活動、地区行事などの開催が限定的となっている。つながりが希薄化し、地区の活力にも大きな影響が出ている点は大きく危惧される ところ。 委 員 人づくりのためには、どのような活動を行っているか知ってもらうことが入口で、重要だと感じる。 委 員 ボランティア活動に参加しようと思う気持ちを拾い上げていくには、どのような団体がどのような活動を行っているか、分かりやすい形で伝えることが重要。これが伝達できれ							

ば、もっと多くの参加が促せるのでは。

委員 福祉施設での中学生の体験学習を見ていると、障がい者や高齢者とどう接すればいいのかの戸惑いを強く感じる。逆を返せば、こういったふれあいの機会、経験がないと、いつまでも扱いが「遠い存在」であり続ける。貴重な福祉学習の機会だと思う。

<基本目標2「安心して暮らせる地域づくり」について>

委員 地域内でのつながりの弱まりを感じる。
その最小単位とも言える「隣組」のレベルで、互いに関心を持つことの大切さを実感している。

委員 自身の家族の事例で、高校卒業時などライフステージが変わる段階で、サービス提供体制の移行に様々な課題を感じた。また、知的障がいのある方が就労しようとしたとき、就労場所への足（送迎）にも課題を感じている。
家族だけで解決しづらい問題でもあり、障がい者が地域で暮らしていける社会を目指すには、一定の支援が必要では。

委員 支援が行き届かない人をどう拾い上げていくかについて、これまでの職務上の経験では、そういった方々は、その方だけでなく、家族を含めて社会とのつながりが薄く、突然課題が表面化する傾向を感じている。そういう実情を認識した上での対応が効果的だと思う。

<その他について>

(特になし)

(以上)